

## I 学校再編行政案（上野台中と八景中の統合）・・・第1次再編計画より抜粋

生徒数、学級数の推移予測	再編の考え方
<p><b>①上野台中学校の状況</b></p> <p>今後の生徒数、学級数の推計では、上野台中学校の平成35年度の生徒数は100人で、すべての学年が単学級（1学年1学級）となり、それ以降もゆるやかな減少が続くと予測されます。</p> <p><b>②八景中学校の状況</b></p> <p>八景中学校は、今後も多少の増減はあるものの適正規模を維持すると予測されます。</p> <p><b>③両校を統合した場合</b></p> <p>この両校を統合した場合、一時的に適正規模をやや上回る19～20学級程度になると見込まれますが、その後は、適正規模（18学級以下）になると予測されます。</p>	<p><b>地理的な状況</b></p> <p>上野台中学校は、八景、上野台中学校区の比較的中央部に近い場所に位置しますが、敷地、校舎規模が小さく700人規模の生徒の受け入れは困難です。</p> <p>八景中学校は、本市の最南端に位置し、国道から学校までの進入路も狭い急坂であり、地理的、地形的な課題を抱えています。</p> <p><b>歴史的な状況</b></p> <p>昭和50年に旧八景中学校区の一部〔志手原小学校区、小野小学校区、三輪小学校区の一部（大原）〕が分離し、旧羽束中学校区と合併して、現在の上野台中学校が開校しました。</p> <p>開校の経過から、上野台中学校区と八景中学校区の関係は深いと考えられます。</p> <p><b>再編案</b></p> <p><b>「上野台中学校と八景中学校の統合」を進めることとし、上記の地理的、歴史的な状況に加え、八景中学校の生徒数が多数（9割近く）を占めることから、場所は「現在の八景中学校区内」で検討します。</b></p>

## Ⅱ 過去に検討した2校統合以外の学校再編案・第2回地域協議会資料より

### 1 学校再編を検討する時の留意事項

学校再編を検討するにあたって、以下の事項について留意する。

「三田市立学校のあり方に関する基本方針」

- Ⅱ 1 「望ましい学校規模 中学校：9～18学級（各学年3～6学級）」
- Ⅱ 2（1）「同じ小学校区の児童が別々の中学校に通うことがないように配慮する」
- Ⅱ 3（1）「通学時間についてはおおむね1時間を超えないように配慮する」

### 2 具体的な方策と見解

#### 1 松が丘小校区を上野台中校区に変更する。

上野台中の推計生徒数（現在校区に居住している幼児数の90%が就学すると推計、R7までは省略）

	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
1年	45(2)	55(2)	39(1)	52(2)	41(2)	31(1)	43(2)
2年	41(2)	45(2)	55(2)	39(1)	52(2)	41(2)	31(1)
3年	58(2)	41(2)	45(2)	55(2)	39(1)	52(2)	41(2)
合計	144(6)	141(6)	138(5)	146(5)	132(5)	124(5)	114(5)

#### 【見解】

- ・校区変更をしても適正規模を確保することはできない。

#### 2 松が丘小校区・三輪小校区を上野台中校区に変更する。

上野台中の推計生徒数（現在校区に居住している幼児数の90%が就学すると推計、R7までは省略）

	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
1年	109(3)	118(3)	111(3)	126(4)	112(3)	96(3)	130(4)
2年	105(3)	109(3)	118(3)	111(3)	126(4)	112(3)	96(3)
3年	117(3)	105(3)	109(3)	118(3)	111(3)	126(4)	112(3)
合計	331(9)	332(9)	338(9)	355(10)	349(10)	334(10)	338(10)

\* 三輪小校区の生徒数については、マンション建設による生徒数の増加を含んでいる。

#### 【見解】

- ・当分の間、適正規模を確保できる見通し。
- ・上野台中校区に6小学校、八景中校区に1小学校（三田小のみ）となる。
- ・松が丘小・三輪小からの生徒の通学手段の確保が課題。

3 上野台中とけやき台中を「けやき台中」に統合する。

2校統合後の推計生徒数（現在校区に居住している幼児数の90%が就学すると推計、R7までは省略）

	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
1年	216(6)	189(5)	137(4)	148(4)	139(4)	117(3)	109(3)
2年	184(5)	216(6)	189(5)	137(4)	148(4)	139(4)	117(3)
3年	212(6)	184(5)	216(6)	189(5)	137(4)	148(4)	139(4)
合計	612(17)	589(16)	542(15)	474(13)	424(12)	404(11)	365(10)

【見解】

- ・当分の間、適正規模を確保できる見通し。 **通学手段の確保が課題。**
- ・路線バスを乗り継いだ場合、**通学時間が1時間を超える**ため、スクールバスの確保が条件となる。

4 上野台中・藍中・長坂中を統合して、新三田付近に新設校を設置する。

3校統合後の推計生徒数（現在校区に居住している幼児数の90%が就学すると推計、R7までは省略）

	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
1年	96(3)	118(3)	88(3)	94(3)	88(3)	75(2)	70(2)
2年	101(3)	96(3)	118(3)	88(3)	94(3)	88(3)	75(2)
3年	110(3)	101(3)	96(3)	118(3)	88(3)	94(3)	88(3)
合計	307(9)	315(9)	302(9)	300(9)	270(9)	257(8)	233(7)

【見解】

- ・市域全体の約4分の3を占める広大な校区となり、**通学手段の確保が課題。**
- ・3校を統合しても、令和13年度には8学級となる見込みであり、**適正規模を下回る。**

### Ⅲ 小規模校、大規模校のメリットとデメリット・・あり方審議会答申より抜粋

#### (1) 小規模校

メリット	デメリット
<p>①1人1人の状況に合わせた、きめ細やかな指導がおこないやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況や学習の定着度を的確に把握できる。</li> <li>・個別指導や補充学習時間の確保がしやすい。</li> </ul> <p>②1人1人が活躍できる機会が多くなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の機会が多くなる。</li> </ul> <p>③異年齢交流が組みやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習や校外活動等</li> </ul> <p>④施設や備品を余裕を持って使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場や体育館、特別教室、ICT機器等</li> </ul> <p>⑤保護者や地域との連携が取りやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土学習、コミュニティ・スクール等</li> </ul>	<p>①クラス替えが全部または一部の学年でできないため、児童生徒の人間関係や相互評価が固定化しやすい。</p> <p>②お互いに切磋琢磨する教育活動、社会性やコミュニケーション能力を養う教育活動がしにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動やグループ分けに制約が生まれる。</li> <li>・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏等の集団学習に制約が生まれる。</li> <li>・運動会・文化祭等の集団活動・行事の教育効果が下がる可能性が高い。</li> </ul> <p>③中学校において部活動の種類が限定されたり、免許外指導の教科が生じる等の課題がある。</p> <p>④バランスのとれた教職員配置やティーム・ティーチング、専科指導等の多様な指導方法の工夫が困難となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数、専門性、男女比等のバランス等</li> </ul> <p>⑤教職員1人1人の校務負担や行事に関わる負担が重くなり、研修や会議の時間が十分とりにくくなる。</p>

#### (2) 大規模校

メリット	デメリット
<p>①児童生徒相互のふれあい等の機会が多く、社会性や協調性が育成しやすい。</p> <p>②集団の中で切磋琢磨する機会が多くなる。</p> <p>③運動会等の学校行事が活発になりやすい。</p> <p>④教職員数が多く、多くの先生と接する機会に恵まれる。</p> <p>⑤調和のとれた校務分掌が確立でき、教職員1人1人の負担が緩和される。</p>	<p>①児童生徒1人1人が主体的に活躍する場や機会が少なくなる場合がある。</p> <p>②異学年交流の機会が設定しにくくなる。</p> <p>③同学年でもお互いの顔と名前を知らない等、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある。</p> <p>④25学級を超えるような規模になった場合、児童生徒1人当たりの校舎や運動場面積等が相対的に狭くなり、学校運営上の難しさがある。</p> <p>⑤教職員が十分な共通理解を図ったりする上で困難が生じる場合がある。</p>